

## 税金制度の必要性

国立市立国立第三中学校 三年 八組 杏椰

私は日本に税金制度があり続けるべきだと思います。今日本では、いくつかの政党が消費税をゼロにすることを目指しています。ですが、消費税がなくなってしまうと日本には様々な悪影響があります。もちろん、消費税をなくすことによって個人消費の活性化や低所得者の負担軽減などのメリットもあります。それを踏まえた上でも大きいデメリットがあると思います。私は税金の中でも特に消費税に注目し、税金制度をなくしたときのデメリットと、税金が具体的に何に使われているのかについて考えたいと思います。まず消費税がなくなった場合のデメリットです。過去十年ほどの事例を見ると消費税の重要性がわかります。二〇一五年、マレーシアでは一時的に消費税の廃止を行いました。中低所得者の買い物の負担を減らすことが狙いでした。ところが、当然ですが消費税をなくすことによって政府に入ってくるお金が大幅に減ります。それにより、学校や病院、道路の整備などにお金が回せなくなってしまう。また、税収が減ると国の借金が増えてしまいます。国の借金が増えると、将来の世代の生活が苦しくなってしまいます。なぜなら、借金は必ず返さなくてはならないため、その分税金が重くなってしまいます。また、お金を借りすぎると国の信用がなくなり、外国からの投資が減ってしまったり、お金を借りるときの利子が重くなってしまいう可能性もあります。そして、本当に必要なことにお金を回せなくなってしまいます。実際、現在の日本では借金返済のために税金で納められたお金の約二割、つまり十兆円以上が使われています。このような状況で日本が消費税を廃止するのは現実的でなく、するべきではないと思います。次に税金は何に使われているのかです。税金の使い道を全部挙げるのは難しいので、最近特に注目されているイベント、大阪・関西万博について紹介します。今回の万博のシンボルである、全周約二キロメートルにも及ぶ大屋根リングの建設や、百八十個以上のパビリオン、食事場所などをつくるために税金が使われています。また、それだけでなく駅やバス停を誰もが使いやすいようにしたり、会場内の暑さを和らげたり、景観を整えるための木や植物の植樹などにも使われています。このような国際的なイベントを行うのにも税金が使われています。税金の必要性が伝わったでしょうか。以上のことから私はこれからも消費税をはじめとした税金の廃止はするべきではないと思います。